

項目別状況

<p><b>第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</b></p> <p>1 市立病院として担うべき医療</p> <p>市立病院は、それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、本市の医療施策上必要とされる医療を安定的に提供すること。</p> <p>(1) 広島市民病院、(2) 安佐市民病院</p>
--

<p><b>中期目標</b></p>	<p>ア 救急医療</p> <p>広島市民病院は、初期救急から三次救急までの救急医療を24時間365日体制で提供するとともに、引き続き救急医療コントロール機能の中心的な役割を担うこと。また、安佐市民病院は、県北西部地域等の中核病院として、引き続き実質的な三次救急医療を提供すること。</p> <p>イ がん医療</p> <p>地域がん診療連携拠点病院としての機能強化を図り、高度で先進的ながん医療を提供すること。</p> <p>ウ 周産期医療</p> <p>広島市民病院は、総合周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊産婦や新生児への周産期医療を提供すること。</p> <p>エ 災害医療</p> <p>災害拠点病院として、災害時に、迅速かつ適切な医療を提供するとともに、災害医療における中心的な役割を果たすこと。</p> <p>オ へき地医療</p> <p>安佐市民病院は、へき地医療拠点病院として、また、市北部地域のみならず、県北西部地域等を対象とした中核病院として、関係医療機関に対する診療や医療従事者の研修等の支援に取り組むこと。</p>
--------------------	---

<p><b>中期計画</b></p>	<p>1 市立病院として担うべき医療</p> <p>それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。</p> <p>(1) 広島市民病院</p> <p>ア 救急医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初期レベルの一次救急医療から、救命救急センターを備え一刻を争う重篤患者に対する三次救急医療までを24時間365日体制で提供します。</li> <li>受入困難事案の救急患者を一旦受け入れ初期診療を行った上で、必要に応じて支援医療機関への転院を行う役割を担う救急医療コントロール機能病院としての運営に取り組みます。</li> <li>医師会が運営する夜間急病センターとの連携、協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めます。</li> </ul>	<p><b>事業年度評価結果（小項目）</b></p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3	3	2
平成30年度	令和元年度	令和2年度						
3	3	2						

<p><b>【主な取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一次から三次までの救急医療を24時間365日体制で提供した。</li> <li>○ 必要に応じて支援病院への転院を行う役割を担う救急医療コントロール機能病院として、救急患者を受け入れるとともに、接遇マナー研修等を行い、医療相談員等のスキルの向上を図り、救急患者等に対する相談機能の充実を図った。</li> <li>○ 一次救急医療の提供体制の適切な運営を行うため、救急相談センター及び千田町夜間急病センターの案内を行うとともに、診療待ち時間等についての問合せに電話確認などで対応し、両センターとの連携を図った。</li> </ul>
--

<p><b>関連指標</b></p> <p>&lt;参考実績&gt;</p> <p>(受入困難事案の受入人数)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成30年</th> <th>平成31年</th> <th>令和2年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入困難事案の受入人数</td> <td>246人</td> <td>217人</td> <td>186人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成30年	平成31年	令和2年	受入困難事案の受入人数	246人	217人	186人
区分	平成30年	平成31年	令和2年					
受入困難事案の受入人数	246人	217人	186人					

中期計画	<p>イ がん診療機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績や高度な医療機器を活用し、手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせさせた集学的治療、緩和ケアを行います。</li> <li>・化学療法のニーズに対応できるよう、通院治療センターの体制等の充実を図ります。</li> <li>・「広島がん高精度放射線治療センター」と連携して質の高い医療を提供します。</li> </ul>	<b>事業年度評価結果（小項目）</b>		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		<b>3</b>	<b>3</b>	<b>3</b>

<p><b>【主な取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 診療科ごとに、毎週、カンサーボード（病理、放射線部門等他職種を交えた診療協議）を行い、手術、化学療法及び放射線治療を適切に組み合わせた治療を実施した。また、困難事例については、必要に応じて、病院全体のカンサーボードを行った。</li> <li>○ 緩和ケアチームの介入により、痛みの緩和だけでなく、病気が招く心と身体のつらさに積極的に関わり生活の質の向上につなげた。</li> <li>○ 医療情報サロンやホームページでがんに関する様々な情報を提供するとともに、同サロンにおいて、毎月、院内の医師や外部講師を招へいして、患者とその家族の集いを開催した。</li> <li>○ 医療支援センター内のがん診療相談室において、がん患者やその家族の様々な相談に応じた。</li> <li>○ 平成30年度に、通院治療センターを兼務している病棟看護師の勤務時間を外来診療時間に合わせて変更し、業務の効率を図った。また、令和2年度に、同センターの拡張整備を行い、病床を16床から5床増設し、診療機能の充実を図った。</li> <li>○ 広島がん高精度放射線治療センター（HIPRAC）の要員として、診療放射線技師1人を派遣するとともに、広島市民病院から患者紹介を行った。</li> <li>○ 投薬窓口のお薬相談室で行っていた薬剤師外来を平成30年10月から入院支援室に2ブース設けて相談機能等の充実を図るとともに、注射薬のみならず経口薬の抗がん剤についても医師の診察前に副作用のモニタリング、支持療法の提案、薬剤の用量調整等を実施した。</li> <li>○ 平成30年10月に岡山大学病院（がんゲノム医療中核拠点病院）から、がんゲノム医療連携病院として選定されており、さらに、令和3年1月に先進医療「マルチプレックス遺伝子パネル検査」の協力医療機関としても追加選定され、協力医療機関としての診療体制を整備した。</li> </ul>	<p><b>関連指標</b></p> <p>&lt;参考実績&gt; （広島市民病院からHIPRACへの患者紹介）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成30年度</th> <th>平成31年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者紹介人数</td> <td>65人</td> <td>82人</td> <td>68人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度	患者紹介人数	65人	82人	68人
区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度						
患者紹介人数	65人	82人	68人						

中期計画	ウ 周産期医療の提供 総合周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊産婦や極低出生体重児に対する医療等、母体、胎児及び新生児に対する総合的で高度な周産期医療を提供します。	事業年度評価結果（小項目）		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		3	3	3

【主な取組】  ○ 新生児部門は、NICU（新生児集中治療室）9床、GCU（新生児治療回復室）24床で運営し、産科部門は、一般病床36床で運営し、総合的な周産期医療を提供した。 ○ 帝王切開を安全かつ速やかに実施するため、総合周産期母子医療センター内に手術室を整備し令和元年11月から運用を開始した。	関連指標 <参考実績> （新生児部門及び産科部門の受入状況）												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成30年度</th> <th>平成31年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新生児部門</td> <td>344人</td> <td>343人</td> <td>397人</td> </tr> <tr> <td>産科部門</td> <td>955件</td> <td>962件</td> <td>915件</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度	新生児部門	344人	343人	397人	産科部門	955件	962件	915件
	区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度									
新生児部門	344人	343人	397人										
産科部門	955件	962件	915件										

中期計画	エ 災害医療の提供 ・災害拠点病院として、地震や台風等の自然災害、大規模火災等の都市災害等に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等を行い、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保します。 ・災害その他の緊急時には、広島市地域防災計画等に基づき、広島市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います。 ・DMAT（災害派遣医療チーム）の派遣要請に基づき、被災地へ医師等を派遣し、被災地の医療活動を支援します。	事業年度評価結果（小項目）		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		3	3	3

【主な取組】  ○ 災害時に備え、自家発電設備等ライフラインの機能の維持、患者用の食糧、飲料水の確保、医薬品の備蓄に努め、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保した。 ○ 看護師に公益社団法人広島県看護協会主催の講習を受講させ、災害支援ナースの登録を34人行っており、平成30年7月6日の広島豪雨災害発生時には、被災地へ災害支援ナース5人を派遣した。また、広島市からの要請により医療救護班として医師12人、看護師12人と運転要員8人を被災地へ9回派遣して、避難者の健康管理、投薬指導等を行うとともに、広島県からの要請により被災地等へDMATを派遣した。さらに、近隣の自治体や関係団体に対しても、医療救護班の派遣を行った。 ○ 広島県からの要請により、令和2年7月6日から同月8日まで熊本県人吉・球磨医療圏保健医療調整本部（人吉医療センター）にDMATを派遣した。 ○ 広島県とDPAT（災害派遣精神支援チーム）の派遣協定を締結した。 ○ 平成31年3月に業務継続計画（BCP）を策定した。 ○ DMATの強化・充実を図るため、令和元年度に、医師等に資格取得研修を受講させるとともに、医師1人に統括DMAT資格取得研修を受講させ、インストラクター資格を習得させた。
--

中期計画	<p>オ 低侵襲手術等の拡充</p> <p>内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」の活用やカテーテル治療とバイパス手術などの外科手術を同時に行うことのできるハイブリット手術室の運用を進め、患者の身体的負担が少ない手術等を拡充します。</p>	<b>事業年度評価結果（小項目）</b>		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		<b>3</b>	<b>3</b>	<b>3</b>

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」を平成30年10月に更新し、患者の身体的負担が少ない内視鏡手術等を推進した。</li> <li>○ 新規に保険適用されたロボット手術のうち、腹腔鏡下の胃切除術、胃全摘術、噴門側胃切除術、子宮悪性腫瘍手術、腹腔鏡下の肺悪性腫瘍手術、良性縦隔腫瘍手術などの施設基準を取得し、実施した。</li> </ul>	<p>関連指標</p> <p>&lt;参考実績&gt;</p> <p style="text-align: center;">（内視鏡手術等件数） <span style="float: right;">（件）</span></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">区 分</th> <th style="width: 15%;">平成30年度</th> <th style="width: 15%;">令和元年度</th> <th style="width: 15%;">令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内視鏡手術</td> <td style="text-align: center;">2,060</td> <td style="text-align: center;">2,148</td> <td style="text-align: center;">1,848</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">内視鏡的 治療 (ESD)</td> <td>食道</td> <td style="text-align: center;">56</td> <td style="text-align: center;">56</td> <td style="text-align: center;">35</td> </tr> <tr> <td>胃</td> <td style="text-align: center;">192</td> <td style="text-align: center;">197</td> <td style="text-align: center;">139</td> </tr> <tr> <td>大腸</td> <td style="text-align: center;">83</td> <td style="text-align: center;">48</td> <td style="text-align: center;">64</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: center;">331</td> <td style="text-align: center;">301</td> <td style="text-align: center;">238</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">（内視鏡下手術） <span style="float: right;">（件）</span></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">区 分</th> <th style="width: 15%;">平成30年度</th> <th style="width: 15%;">令和元年度</th> <th style="width: 15%;">令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内視鏡下手術（ダヴィンチ）</td> <td style="text-align: center;">109</td> <td style="text-align: center;">143</td> <td style="text-align: center;">262</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	内視鏡手術	2,060	2,148	1,848	内視鏡的 治療 (ESD)	食道	56	56	35	胃	192	197	139	大腸	83	48	64	計	331	301	238	区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	内視鏡下手術（ダヴィンチ）	109	143	262
区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度																															
内視鏡手術	2,060	2,148	1,848																															
内視鏡的 治療 (ESD)	食道	56	56	35																														
	胃	192	197	139																														
	大腸	83	48	64																														
	計	331	301	238																														
区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度																															
内視鏡下手術（ダヴィンチ）	109	143	262																															

中期計画	<p>カ 中央棟設備の老朽化への対応</p> <p>救命救急センター、ICU（集中治療室）、中央手術室等、病院の中核機能が集中する中央棟は、築後25年を経過し、建物設備の老朽化が進行していることから、計画的な改修など、老朽化への対応を行います。</p>	<b>事業年度評価結果（小項目）</b>		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		<b>3</b>	<b>3</b>	<b>3</b>

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 空調設備や病棟個室、吸収式冷凍機、水熱源ヒートポンプ型ファンコイルユニット等の改修を行った。</li> <li>○ 給食センターの改修を行った。</li> </ul>	
--	--

中期計画	<p>1 市立病院として担うべき医療 それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。</p> <p>(2) 安佐市民病院</p> <p>ア 救急医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県北西部地域等の救急医療体制の実態を踏まえ、引き続き実質的な三次救急医療を提供します。</li> <li>・ 医師会が運営する夜間急病センターとの連携、協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めます。</li> </ul>	<p><b>事業年度評価結果（小項目）</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3	3	3
	平成30年度	令和元年度	令和2年度					
3	3	3						

<p><b>【主な取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県北西部地域等における実質的な三次救急医療を24時間365日体制で提供した。</li> <li>○ 救急患者を断らない体制づくりを目指して、平成30年10月から、当直体制の医師の区分について、内科及び外科医師を当直に、その他医師を第二当直とする体制に変更し、原則として、救急車搬送患者及び紹介患者は、当直及び研修医当直が対応することとした。</li> <li>○ 一般社団法人安佐医師会が運営する可部夜間急病センターとの連携・協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営を行った。</li> </ul>	<p><b>関連指標</b></p> <p>&lt;参考実績&gt;</p> <p>(救急車及び救急患者の受入状況)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急車</td> <td>4,773台</td> <td>4,623台</td> <td>4,555台</td> </tr> <tr> <td>救急患者</td> <td>11,572人</td> <td>11,348人</td> <td>9,916人</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	救急車	4,773台	4,623台	4,555台	救急患者	11,572人	11,348人	9,916人
区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度										
救急車	4,773台	4,623台	4,555台										
救急患者	11,572人	11,348人	9,916人										

中期計画	<p>イ がん診療機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績や高度な医療機器を活用し、手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた集学的治療、緩和ケアを行います。</li> <li>・ PET-CT（陽電子断層撮影・コンピュータ断層撮影複合装置）や低被ばくCTを活用し、精度の高い診断を行います。</li> </ul>	<p><b>事業年度評価結果（小項目）</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3	4	4
	平成30年度	令和元年度	令和2年度					
3	4	4						

<p><b>【主な取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成31年4月に「がんゲノム医療連携病院」の指定を受け、令和元年10月から、院内患者のがんゲノム医療を開始した。</li> <li>○ 令和2年4月から「がんゲノム診療科」を開始するとともに、がんゲノム医療中核病院である岡山大学病院及びがんゲノム医療拠点病院である広島大学病院と連携し、院外からの紹介患者の受入を開始した。</li> <li>○ キャンサーボードを毎週開催し、院外専門家の意見を聴きながら、手術、化学療法及び放射線治療を適切に組み合わせた治療と緩和ケアを実施した。</li> <li>○ PET-CTやCT（PET-CTを除く。）の活用により、精度の高い診断を行った。</li> <li>○ 平成30年4月1日より、骨吸収抑制薬使用患者の地域連携バスの運用を開始し、地域の歯科医院と連携するとともに、院内で顎骨壊死を早期に発見することができた。</li> <li>○ 内視鏡検査室を1室増設し、令和元年6月より運用を開始したことにより、内視鏡検査及び治療件数が増加するとともに、がん患者の待ち期間が8週間前後から2~4週に短縮した。</li> </ul>
---

<b>中期計画</b>	<p>ウ 災害医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害拠点病院として、地震や台風等の自然災害、大規模火災等の都市災害に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等を行い、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保します。</li> <li>・災害その他の緊急時には、広島市地域防災計画等に基づき、広島市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います。</li> <li>・DMATの派遣要請に基づき、被災地へ医師等を派遣し、被災地の医療活動を支援します。</li> </ul>	<b>事業年度評価結果（小項目）</b>		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		<b>3</b>	<b>3</b>	<b>3</b>

<b>【主な取組】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害時に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等に努め、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保した。</li> <li>○ 看護師に公益社団法人広島県看護協会主催の講習を受講させ、災害支援ナースの登録を6人行っており、平成30年7月6日の広島豪雨災害発生時には、被災地へ災害支援ナース延べ7人を派遣した。また、広島市からの要請により医療救護班として医師、看護師、事務職員を被災地へ9回派遣して、避難者の健康管理、投薬指導等を行うとともに、広島県からの要請により被災地等へDMATを派遣した。</li> <li>○ 平成31年3月に業務継続計画（BCP）を策定した。</li> </ul>	

<b>中期計画</b>	<p>エ ヘき地医療の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・へき地医療拠点病院として、市北部地域のみならず、県北西部地域等の医療状況等に応じて、引き続き医師の派遣に取り組みます。</li> <li>・県北西部地域等の医療従事者に対する研修の提供やWEB会議システムの活用により診療の質の向上を支援するとともに、交流の場を提供します。</li> </ul>	<b>事業年度評価結果（小項目）</b>		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		<b>3</b>	<b>4</b>	<b>3</b>

<b>【主な取組】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和元年9月に広島県北西部地域医療連携センターの運営を開始し、広島大学ふるさと枠医師の受入、研修や派遣等の支援を充実させた。</li> <li>○ 北広島町、安芸太田町及び邑南町（島根県）などのへき地診療所等へ医師を派遣するとともに、安芸太田病院から依頼のあった遠隔画像読影を行った。</li> <li>○ 県北西部地域等の医療従事者に研修及び交流の場を提供するため、広島県北西部地域医療センター等の研修会を開催した。</li> <li>○ 北部地域の病院が連携した広島中山間地病院連携地域医療研修プログラム「南斗六星研修ネットひろしま」により、研修医の受入体制を維持した。</li> <li>○ 安佐市民病院を含む北部地域8医療機関で、WEB会議システムを活用して医療機関合同カンファレンス等を実施した。</li> </ul>	

中期計画	<p>オ 低侵襲手術の拡充等</p> <p>内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」を活用した手術の対象領域の拡大や心臓手術における小切開手術など患者の身体的負担が少ない手術の拡充と日帰り手術の推進等を行います。</p>	<b>事業年度評価結果（小項目）</b>		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		3	3	3

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内視鏡下手術用ロボットの活用や低侵襲手術の実施などにより、患者の負担の少ない低侵襲手術を推進した。</li> <li>○ 平成30年より、膀胱がんに対するロボット支援下膀胱全摘除術を追加開始し、保健適用のある泌尿器科領域3術式（胃がん、前立腺がん、膀胱がん）全てにおいて、内視鏡下手術用ロボットの施設認定が完了した。また、令和元年6月に胃がんに対する腹腔鏡下胃全摘、令和元年12月に直腸がんに対する腹腔鏡下直腸切除・切除術、令和3年1月に子宮腫瘍に対する腹腔鏡下腔式子宮全摘の内視鏡下手術用ロボットの施設認定が完了し、保険適用となった。</li> <li>○ 外部医師の指導を仰ぎながら、心臓手術における小切開手術など患者の身体的負担が少ない手術を推進した。</li> <li>○ 平成30年度よりクライオアブレーションを本格導入し、これまでの高周波カテーテルアブレーションと比較して、手技時間及び放射線被ばく時間の大幅な短縮が可能となった。</li> </ul>
---

中期計画	<p>カ 新病院での新たな取組の検討 新病院における高度で先進的な医療の実施・拡充等を検討するとともに、その体制づくりや関連業務の検討を行います。</p>	<b>事業年度評価結果（小項目）</b>		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		<b>3</b>	<b>3</b>	<b>3</b>

【主な取組】

- 令和元年6月に開設準備委員会を立ち上げ、7月以降16ワーキンググループで議論を進めた。
- 地域救命救急センターの勤務体制を検討するとともに、救急患者受入に係る医師の診療体制、薬剤部門等他部門や病棟など組織の垣根を越えた連携等について議論し、令和2年11月中旬から医師を公募している。また、ドクターヘリ搬送患者受け入れ手順案を策定した。
- 現在、多職種が共同して周術期医療の安全・質の向上を目指し活動しており、新病院においては、さらに周術期の管理を充実させるため、周産期管理チームと放射線科との連携や周術期患者管理システムの導入等について検討した。
- 新病院にて掲げる、「循環器内科と心臓血管外科が一体となった心臓疾患チームによる医療の推進」に向けて実質的なハートチームを立ち上げ、カンファレンスを実施した。
- チーム医療体制の充実を図るため関連診療科を集約配置したセンター化を図る等の結論を得た。
- 新病院で365日リハビリテーションを実施するために必要な療法士数及びローテーション等について検討した。
- 患者の入眠状況の把握により、転倒・転落予防を図ることを目的としたスマートベッドや、タイムリーかつ誤りや漏れのない記録の実現に向けて、患者のバイタルデータ等を自動送信することが可能となるスポットチェックモニタを新病院に導入することを検討した。
- 病棟における安全な注射管理のために、薬剤部員全員で注射薬の無菌調整業務を行い、技術の研鑽に努めた。
- 入院・外来診療報酬算定の業務等の直営化について検討した。
- 「待たせない外来」を実現するため、患者動線を考慮し、受付から会計まで円滑に診察が進むよう各部門が連携できる体制づくりを進めるとともに、適正な時間枠と診療患者人数の設定などの外来診察予約基本ルールを提言した。
- 精神科病棟の入院患者像の検討等を行った。
- がん治療に関する部門を集約し、複合的な業務を的確に実施できるよう運用等について検討を行った。
- 手術室を効率的に運用できるよう、手術枠の見直し、手術間のインターバルの短縮、手術の準備等に関するSPD（院内物流管理業務）業者や業務員との協力体制などを検討した。
- 新病院で提供する医療に適した医療機器を整備するため、各部署からヒアリングを実施した。整備が必要な機器を確定し、順次購入手続を進めている。



中期計画	(キ その他)	事業年度評価結果 (小項目)		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		3	3	3

【主な取組】

- 平成30年度から特定集中治療室に専任の理学療法士を1人配置し、介入プロトコルを作成して早期離床に取り組むとともに、リハビリテーション待機期間の短縮を図るため、可能な限り処方翌日に介入できるよう取り組み、VF検査（嚥下造影検査）を当日処方、遅くとも翌日には実施した。
- 北5病棟に専従の理学療法士を1人配置し、ADLの維持向上、転倒・褥瘡発生の防止、早期の退院支援等を行うとともに、肺がん、食道がん、大腸がん、乳がん等のリハビリテーションを術後早期から実施した。また、外来小児言語療法を継続するための診療体制を維持した。
- 特定行為研修修了者による糖尿病患者へのインスリン量の調整及び療法指導を実施した。また、認定看護師によるがん患者の指導相談、助産師による助産外来、認定看護師による専門外来としてストーマ外来、もの忘れ外来、心不全外来、リンパ浮腫外来を実施した。
- がん専門薬剤師及び認定薬剤師が、外来がん化学療法実施中の患者に副作用確認、患者指導を行った。
- 地域包括支援センター、社会福祉協議会及び区役所と協力して、アドバンス・ケア・プランニングや認知症等についての地域講演会を開催し、地域との関係作りの充実を図った。

**第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置**

1 市立病院として担うべき医療

市立病院は、それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、本市の医療施策上必要とされる医療を安定的に提供すること。

(3) 舟入市民病院

<p><b>中期目標</b></p>	<p>ア 小児救急医療等、小児専門医療 小児救急医療拠点病院として、小児科の24時間365日救急診療を行うとともに、初期救急医療機関及び二次救急医療機関としての医療を提供すること。また、年末年始救急診療等を引き続き実施するとともに、小児診療に特長のある病院として小児心療科等の小児専門医療の充実を図ること。</p> <p>イ 感染症医療 広島二次保健医療圏における第二種感染症指定医療機関として、引き続き感染症患者の受入体制を維持すること。</p> <p>ウ 障害児（者）医療 医療的なケアが必要な重症心身障害児（者）の受入体制の充実を図るとともに、障害児（者）に対する診療相談機能を整備すること。</p>
<p><b>中期計画</b></p>	<p>1 市立病院として担うべき医療 それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。</p> <p>(3) 舟入市民病院</p> <p>ア 小児救急医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小児科の24時間365日救急診療を安定的に提供するため、引き続き、医師会、広島大学等の協力を得るとともに、市立病院間の応援体制の強化に取り組みます。また、重篤な小児救急患者の円滑な搬送を行うため、三次救急医療機関との連携を図ります。</li> <li>トリアージナースの能力向上を図り、診療体制の強化に取り組みます。</li> </ul>

事業年度評価結果（小項目）		
平成30年度	令和元年度	令和2年度
<b>3</b>	<b>3</b>	<b>3</b>

**【主な取組】**

- 医師会や広島大学等の協力を得て、24時間365日体制で小児救急を実施した。
- 小児救急医療の実施に当たっては、市立病院間の応援体制を整えるとともに、重篤で高度医療が必要な患者については、広島大学病院などの三次救急医療機関に搬送し、一方で三次救急医療機関からも主にインフルエンザ患者を積極的に受け入れるなどの連携を図った。
- 小児救急看護認定看護師が中心となって、小児救急看護分野の院内認定制度を導入した。また、トリアージナース育成に関する研修やフォローアップ研修などを制度化し、トリアージナースの能力の向上を図った。さらに、成人のトリアージの導入に向け、院外研修へ外来の看護師を派遣し、取り組んでいる。

中期計画	<p>イ 小児専門医療の充実</p> <p>小児心療科において、精神療法等の個人療法やグループで治療を行う集団療法に加え、未治療者や治療中断者の重症化防止のための支援について検討を行います。また、小児科のアレルギー外来と連携し、アトピー疾患専門医による診療の充実を図ります。</p>	事業年度評価結果（小項目）		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		3	3	3

【主な取組】
<p>○ 小児診療科においては、不登校、神経症、摂食障害等思春期特有の症状を呈している子どもに対し、外来診療を行うとともに、不登校の小中学生の対人交流を図ることを目的とした集団精神療法を実施した。また、小児科入院患者に対し、小児科と連携し、入院中から退院後においても小児診療科がフォローを行った。</p> <p>○ 小児皮膚科においては、広島大学病院皮膚科のアトピー疾患専門医により、週1日の外来診療を行った。また、患者への細やかな外用薬の使用指導や院内小児科と連携した診療を行った。</p>

中期計画	<p>ウ 感染症医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第二種感染症指定医療機関として、重症急性呼吸器症候群（SARS）や新型インフルエンザ等の感染症患者への対応が迅速に行えるよう、平常時から医療体制を維持するとともに、感染症発生時には、市立病院を始めとする市内の関連病院と連携して対応します。</li> <li>・感染症専門資格の取得など教育研修への参加を促進し、職員の専門性の向上を図ります。</li> </ul>	事業年度評価結果（小項目）		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		3	4	5

【主な取組】
<p>○ 第二種感染症指定医療機関として16床の感染症病床による運営体制を維持した。ピーク時には県からの要請により30床まで拡大するなど、感染症対応に努めた。</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、令和2年1月から保健所と対応方針の確認、マニュアルの整備を行い、体制の構築を行うとともに、県や市、近隣の病院等との連携を強化した。</p> <p>○ 令和2年7月から、新たにビジネス渡航者に対する新型コロナウイルス感染症のPCR検査と証明書の発行を行った。</p> <p>○ 令和2年12月の新型コロナウイルス感染症患者の急増に伴い、発熱外来の他、新型コロナウイルス感染者関連のトリアージを、12月7日より開始した。</p> <p>○ 感染制御認定薬剤師（BCPIC）の資格の取得又は更新をするため、感染制御認定薬剤師講習会や日本感染症教育研究会セミナーへ職員が参加した。また、抗菌化学療法認定薬剤師の資格更新のため、抗菌化学療法認定薬剤師講習会へ参加したほか、医師、薬剤師、看護師及び検査技師が日本環境感染症学会学術講演会等に参加した。</p> <p>○ 新型インフルエンザ等対策マニュアルの連絡・搬送等の確認のため、感染症認定看護師が広島空港検疫措置訓練及び呉港湾新型インフルエンザ検疫措置訓練に参加した。</p>

中期計画	<p>エ 病院機能の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島市民病院からの手術症例の受入れ強化を行うとともに、地域住民の緊急時の受入れ強化等に取り組みます。</li> <li>・法人における外科系研修医師の手術教育施設（トレーニング）として、良性疾患を中心とした手術を行います。</li> </ul> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>令和 3 年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td> <td>82.9</td> <td>85.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率</p>	区 分	平成 28 年度実績	令和 3 年度目標値	病床利用率 (%)	82.9	85.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	事業年度評価結果（小項目）			平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	2	2	2
	区 分	平成 28 年度実績	令和 3 年度目標値														
	病床利用率 (%)	82.9	85.0														
事業年度評価結果（小項目）																	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度															
2	2	2															

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広島市民病院から急性期医療を終えた患者を受け入れるとともに、地域の医療機関からの紹介患者についても受入手順を効率化し、積極的に受け入れた。</li> <li>○ 診療科医師、看護師等による医療連携運用会議を毎月開催し、入院患者の入退院状況の把握、調整を行い、他の医療機関からの受入を推進した。</li> <li>○ 広島市民病院からMRI検査を受け入れた。</li> </ul>	<p>関連指標</p> <p>&lt;目標値に対する実績&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td> <td>76.8</td> <td>73.4</td> <td>51.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率（新型コロナウイルス感染症患者を含む）</p> <p>&lt;参考実績&gt;</p> <p>（広島市民病院からの紹介患者の受入）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介患者数</td> <td>572 人</td> <td>734 人</td> <td>211 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>（広島市民病院からのMRI検査の受入）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MRI検査数</td> <td>258 件</td> <td>430 件</td> <td>155 件</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	病床利用率 (%)	76.8	73.4	51.0	区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	紹介患者数	572 人	734 人	211 人	区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	MRI検査数	258 件	430 件	155 件
区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度																						
病床利用率 (%)	76.8	73.4	51.0																						
区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度																						
紹介患者数	572 人	734 人	211 人																						
区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度																						
MRI検査数	258 件	430 件	155 件																						

<b>中期計画</b>	オ 障害児（者）診療相談機能の充実	<b>事業年度評価結果（小項目）</b>		
	医療型重症心身障害児者短期入所利用者数の拡大を図り、障害児者への対応に関し知識・技術を持った職員の育成を行うなど、 障害児（者）の診療相談機能の充実を図ります。	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		<b>3</b>	<b>3</b>	<b>3</b>

<p><b>【主な取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 重症心身障害児（者）地域生活支援協議会や障害児（者）への関わり方に関する研修会に参加し、訪問看護ステーションやデイケア・デイサービスを行っている施設等と交流を図り、知識を深めた。</li> <li>○ 障害児（者）連携会議等に参加し、広島市や家族の方々との連携強化に努めた。また、舟入市民病院が行っている医療併設型レスパイト事業は、全国的にも珍しく、県内外からの見学の受入れを行った。</li> <li>○ 医療型重症心身障害児（者）の短期入所利用者数の拡大に努めたが、令和元年度及び令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い受入れを中止した期間があったため、2年続けて減少した。</li> </ul>	<p><b>関連指標</b></p> <p>&lt;参考実績&gt;</p> <p style="text-align: center;">（医療型重症心身障害児（者）の短期入所利用者数）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区 分</th> <th style="text-align: center;">平成30年度</th> <th style="text-align: center;">令和元年度</th> <th style="text-align: center;">令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">短期入所利用者数（延べ人数）</td> <td style="text-align: center;">628人</td> <td style="text-align: center;">535人</td> <td style="text-align: center;">250人</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	短期入所利用者数（延べ人数）	628人	535人	250人
区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度						
短期入所利用者数（延べ人数）	628人	535人	250人						

中期計画	<p>カ 人間ドックの充実</p> <p>市民の健康保持・増進等の観点から人間ドックの充実を図るとともに、特定健康診査・特定保健指導の実施体制を構築します。また、人間ドック機能評価の受審に向けて取組を進めます。</p> <p><b>【目標値】</b></p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>令和 3 年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間ドック健診者数(人)</td> <td style="text-align: center;">2, 1 3 1</td> <td style="text-align: center;">5, 0 0 0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成 28 年度実績は被爆者健康診断を除いた人数</p>	区 分	平成 28 年度実績	令和 3 年度目標値	人間ドック健診者数(人)	2, 1 3 1	5, 0 0 0	<p><b>事業年度評価結果（小項目）</b></p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>平成 3 0 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; font-size: 24px;">2</td> <td style="text-align: center; font-size: 24px;">2</td> <td style="text-align: center; font-size: 24px;">2</td> </tr> </tbody> </table>	平成 3 0 年度	令和元年度	令和 2 年度	2	2	2
	区 分	平成 28 年度実績	令和 3 年度目標値											
	人間ドック健診者数(人)	2, 1 3 1	5, 0 0 0											
平成 3 0 年度	令和元年度	令和 2 年度												
2	2	2												

<p><b>【主な取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成 31 年 4 月から特定保健指導を実施した。</li> <li>○ 人間ドックの健診受診者の新規開拓のため、舟入公民館まつりへの参加や健康サロンの開催、新聞への広告掲載などを行った。また、検診受診者の便宜を図り、口コミによる受診を獲得するため、検診異常結果をCD化して結果通知を行った。</li> <li>○ 検診受診者にアンケート調査を行い、検診センターの改善に努めた。</li> <li>○ 公立病院として人間ドック業務を行うことの意義を改めて整理し、舟入市民病院において人間ドック業務を提供する必要性について検討した結果、令和 2 年度末をもって人間ドックを廃止する予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、令和 2 年 12 月から休止していた業務を前倒しして、令和 3 年 2 月に廃止した。</li> </ul>	<p><b>関連指標</b></p> <p>&lt;目標値に対する実績&gt;</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間ドック健診者数(人)</td> <td style="text-align: center;">2, 8 1 4</td> <td style="text-align: center;">2, 9 0 1</td> <td style="text-align: center;">1, 5 9 6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※各年度の実績は被爆者健康診断を含めた人数</p>	区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	人間ドック健診者数(人)	2, 8 1 4	2, 9 0 1	1, 5 9 6
区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度						
人間ドック健診者数(人)	2, 8 1 4	2, 9 0 1	1, 5 9 6						

**第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置**

1 市立病院として担うべき医療

市立病院は、それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、本市の医療施策上必要とされる医療を安定的に提供すること。

(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設

<p>中期目標</p>	<p>ア リハビリテーション医療 リハビリテーション病院は、脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者に対して、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を継続的かつ安定的に提供すること。また、急性期病院と連携し、急性期の疾病治療・リハビリテーションと一体的かつ連続的な回復期のリハビリテーションを実施すること。</p> <p>イ 自立訓練 自立訓練施設は、リハビリテーション病院等の医療機関と連携を図りながら、利用者の家庭や職場、地域での生活再構築のための訓練等を行うこと。</p> <p>ウ 相談機能、地域リハビリテーション リハビリテーション病院・自立訓練施設は、関係機関と連携して、利用者からの相談を適切に受けられる体制を強化するとともに、退院・退所後の生活を支援すること。また、地域リハビリテーション活動を支援するなど、本市の身体障害者更生相談所等と連携して、リハビリテーションサービスを総合的かつ一貫して提供すること。</p> <p>エ 災害医療 リハビリテーション病院は、病院の立地条件を生かし、デルタ地帯が被災した場合に備え、他の市立病院のバックアップ機能を強化すること。</p>										
<p>中期計画</p>	<p>1 市立病院として担うべき医療 それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。</p> <p>(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設</p> <p>ア 総合的なリハビリテーションサービスの提供 広島市身体障害者更生相談所、リハビリテーション病院及び自立訓練施設の運営責任者で構成する常設の運営調整会議を設置し、連携の維持を図り、これまでどおり3施設が連携した総合的なリハビリテーションサービスを安定的かつ継続的に提供します。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> </tbody> </table>	事業年度評価結果（小項目）			平成30年度	令和元年度	令和2年度	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）											
平成30年度	令和元年度	令和2年度									
3	3	3									

【主な取組】

- 脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者の社会復帰や社会参加を促進するため、高度で専門的な医療と自立のための訓練や相談など、生活の再構築のための一貫したリハビリテーションサービスを提供した。
- 3施設の運営責任者で構成する連絡会議の実施やリハビリテーション病院及び自立訓練施設の各部署の運営責任者等で構成する病院・施設運営会議に広島市身体障害者更生相談所の運営責任者が参加することにより、3施設の連携強化を図った。

中期計画	イ 回復期リハビリテーション医療の充実	<b>事業年度評価結果（小項目）</b> <table border="1"> <tr> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </table>			平成30年度	令和元年度	令和2年度	4	3	3
	平成30年度				令和元年度	令和2年度				
	4	3	3							
<ul style="list-style-type: none"> <li>広島市民病院、安佐市民病院などの急性期病院との連携強化を図り、急性期の疾病治療・リハビリテーションを経過した患者を受け入れ、日常生活機能の向上や社会復帰を目的とした専門的で集中的な回復期のリハビリテーションを継続的・一体的に提供します。</li> <li>退院後の患者を中心に継続的なりハビリテーション医療を提供するため、地域医療機関とも連携して、外来リハビリテーションや訪問リハビリテーション・訪問看護など在宅療養への支援の充実を図ります。</li> </ul>										
<b>【目標値】</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）</td> <td>7.9</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率（%）</td> <td>81.8</td> <td>82.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※在宅復帰率は、全入院患者を対象として算出</p>	区 分	平成28年度実績	令和3年度目標値	患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）	7.9	8.4	在宅復帰率（%）	81.8	82.0	
区 分	平成28年度実績	令和3年度目標値								
患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）	7.9	8.4								
在宅復帰率（%）	81.8	82.0								

- 【主な取組】
- 365日切れ目ないリハビリテーション医療を提供する体制を維持し、効果的な回復期リハビリテーション医療を提供した。
  - 広島市民病院及び安佐市民病院から急性期医療を終えた患者を受け入れ、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を提供した。また、病院機構の地域連携実務者会議に参加し、相互の情報交換や連携強化を図るとともに、スムーズな転院受入れのため、令和元年11月から、広島市民病院及び安佐市民病院に対して、空床及び待機状況等の情報提供を開始した。
  - 身体疾患のために入院した認知症患者に対するケアの質の向上を図るため、入院前の生活状況等を踏まえた看護計画を作成するとともに、多職種による認知症ケアの専門チーム体制を整えてカンファレンス及び病棟ラウンドを週1回実施するなど、認知症状を考慮したケアの充実・強化を図った。
  - 退院した患者に継続して外来でのリハビリテーションを提供するため、従来の言語療法に加え、理学療法及び作業療法の実施体制の充実を図るとともに、高次脳機能障害を有する外来リハビリテーション利用者に対する専門外来や糖尿病足病変等で歩行に支障をきたしている患者にフットケア外来を実施した。また、令和元年度からは、脳神経内科医による神経難病患者に対するリハビリの専門外来を開始したほか、VF検査による摂食嚥下評価を実施した。
  - 退院した患者の在宅療養へのスムーズな移行及び継続的な在宅療養の維持を支援するため、訪問リハビリテーション及び訪問看護を実施した。
  - 広島市が実施する介護予防拠点など住民運営の「通いの場」の立ち上げ・運営の支援や要支援者等に対する介護予防ケアマネジメントなどに、リハビリテーション専門職を派遣するため、安佐南区における派遣調整を行う業務を広島市から受託した。また、令和元年度から、広島二次保健医療圏における「通いの場」設置の推進を目的として関係機関のネットワークを構築する事業を広島県から受託した。
  - 令和元年10月から、退院後も集団コミュニケーション療法及び個別言語聴覚療法が必要な対象者に対し、介護保険による短時間通所リハビリテーションを実施した。
  - 令和2年11月から、下部尿路機能障害を有する患者に対して機能回復のための包括的排尿ケアを提供するため、排尿ケアチームを設置し、医師、看護師等が連携した排尿ケアを開始した。

関連指標

<目標値に対する実績>

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）	8.5	8.5	8.5
在宅復帰率（%）	85.8	85.4	85.8

<参考実績>

広島市民病院及び安佐市民病院からの入院患者の受入状況

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
広島市民病院	153人	164人	130人
安佐市民病院	64人	88人	80人

（外来リハビリテーションの実績）

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
言語療法	延人数	2,327人	2,409人	2,181人
	実施単位数	6,956単位	7,209単位	6,519単位
理学療法	延人数	1,338人	1,891人	1,699人
	実施単位数	4,049単位	5,656単位	5,074単位
作業療法	延人数	1,427人	1,885人	1,839人
	実施単位数	4,271単位	5,646単位	5,525単位



中期計画	ウ 自立訓練施設の利用促進 ・リハビリテーション病院との連携を強化し、連続性のある訓練の実施と訓練内容の充実を図ります。 ・医療・福祉関係機関、福祉サービス事業者等との連携を強化し、地域からの施設利用の拡大を図ります。 ・施設の機能、提供する支援の充実のため、新たな障害福祉サービスの実施について検討します。	事業年度評価結果（小項目）		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		4	4	3

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ リハビリテーション病院の医師が、自立訓練施設の医師を兼ね、リハビリテーション計画の担当医として、連続性のある訓練を実施するとともに、医学的リハビリテーションを取り入れるなど、訓練内容の充実を図った。</li> <li>○ 施設利用の拡大を図るため、医療機関、地域包括支援センター、相談支援事業所、行政機関、関係団体等を職員が訪問したり、案内文を送付するなど、施設紹介や連携強化を図った。</li> <li>○ 平成30年6月から、身体障害は改善したものの、高次脳機能障害が残っている人を対象とした自立訓練（生活訓練）を新たに開始し、令和元年7月から定員を6人から12人に、令和3年1月からは定員を15人に拡充した。</li> <li>○ 高次脳機能障害等のあるリハビリテーション病院を退院した利用者について、同病院の言語外来リハビリテーションと連携した訓練を実施した。また、医学的リハビリテーションを必要とする自立訓練施設利用者に、リハビリテーション病院の外来リハビリテーション（理学療法・作業療法）を提供した。</li> <li>○ 令和元年度から、就労定着支援サービスの実施に向けて検討を行い、事業所指定の準備を進めてきたが、サービスの実施に当たり職員が利用者の自宅等を訪問する必要があるため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を考慮し、指定を見合わせた。今後、新型コロナウイルス感染症の収束状況を見極めた上で、サービスを開始する。</li> </ul>	<p>関連指標</p> <p>&lt;参考実績&gt; (施設利用者数の実績)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月平均利用者数 (契約者数)</td> <td>46人</td> <td>57人</td> <td>54人</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	月平均利用者数 (契約者数)	46人	57人	54人
区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度						
月平均利用者数 (契約者数)	46人	57人	54人						

<b>中期計画</b>	<p>エ 相談機能の充実と地域リハビリテーションの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状況に応じた退院・退所後の生活支援ができるよう、地域の医療・保健・福祉関係機関と連携した相談機能の充実を図ります。</li> <li>・広島市身体障害者更生相談所と連携して、地域リハビリテーションの推進を図ります。</li> </ul>	<b>事業年度評価結果（小項目）</b>		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		<b>3</b>	<b>3</b>	<b>3</b>

<b>【主な取組】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療支援室において入院患者一人一人に担当する医療ソーシャルワーカーを充てて、入院から退院までの生活上の心配事等について相談に応じた。</li> <li>○ リハビリテーション病院内に平成27年9月に設置した身体障害者特定相談支援事業所の相談支援専門員により、障害福祉サービスを利用するための「サービス等利用計画案」の作成など、地域の医療・保健・福祉機関と連携した相談支援を行った。</li> <li>○ リハビリテーションをテーマとした市民対象の講座を実施するとともに、医療機関等におけるリハビリテーションの技術支援を目的とした研修会を開催した。また、広島市身体障害者更生相談所と連携して、院内において車椅子や歩行器などの福祉用具の展示を行った。</li> </ul>	

<b>中期計画</b>	<p>オ 災害時の市立病院間のバックアップ機能の強化</p> <p>西風新都に立地し、高速道路インターチェンジに近接するというリハビリテーション病院の地理的条件を生かし、デルタ地帯が被災した場合に備え、他の市立病院の診療情報の保管や医薬品等の備蓄などバックアップ機能の強化を図るとともに、DMATの受入拠点、広域搬送拠点としての活用について検討します。</p>	<b>事業年度評価結果（小項目）</b>		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		<b>3</b>	<b>3</b>	<b>3</b>

<b>【主な取組】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他の市立病院の状況を踏まえ、必要なバックアップの具体的な内容（リハビリテーション病院の診療情報管理システムの更新と合わせた他病院の診療情報の保管や保管する医薬品の数量及び管理方法等について）等の検討を行った。</li> <li>○ DMATの受入拠点及び広域搬送拠点として施設内の提供可能なスペース等の想定などの活用の具体的な内容について、検討を行った。</li> <li>○ 新型コロナウイルス感染症対策における、他の市立病院の支援として、リハビリテーション病院で備蓄していた個人防護着キット等を舟入市民病院へ提供した。また、新型コロナウイルス感染症拡大による物流途絶の場合に備え、広島市民病院・舟入市民病院で使用する診療材料を保管した。</li> <li>○ 新型コロナウイルス感染症患者の受入医療機関の後方支援として、新型コロナウイルス感染症が回復後、引き続き入院管理が必要な患者の転院受入を行った。</li> </ul>	